

一般 地域おこし協力隊員の積極的活用

渥美 嘉樹（至誠の絆）



様々な財源措置がある「地域おこし協力隊」の制度をさらに積極的に活用し、菊川の茶業・農業政策、産業政策、移住定住政策等を加速させるべきという立場で質問する。

〔Q〕令和5年度の地域おこし協力隊の募集状況を伺う。また、報償費は制度上23万3千円を上限に設定できる。菊川市では月額20万円が上限とされている。報償費の設定に関する考え方を伺う。

〔A〕募集状況について、応募者はまだない。今後、地域おこし協力隊が活躍できる分野も様々に考えられることから、報償費の月額の見直しや民間求人サイトを活用した隊員の募集についても検討する。

〔Q〕就農特化型、企業型、おためし地域おこし協力隊などのような多様な形態で制度を積極的に活用することが重要。以上のような形態での制度活用について方針を伺う。

〔A〕全国の自治体において、様々な形態で地域おこし協力隊を活用

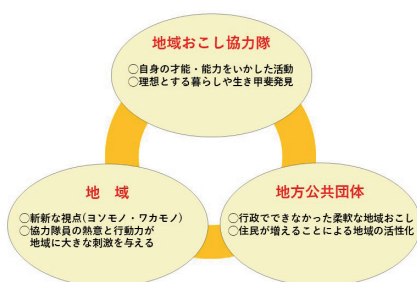
している中で、事例の把握に努め、適切と考える形態での活用を図る。

〔Q〕まずは積極的な地域おこし協力隊の活用に向けて第一歩の具体的なアクションを起こしていただきたいと思うが、方針を伺う。

〔A〕制度活用について相談があった場合には、庁内挙げて検討をする。またさらなる利用活用に向けて全国の事例を把握しながら、市内の周知を図りながら活用につなげていく。

他に「第3次総合計画の策定方針」、「不登校対応③」について質問しました。

地域おこし協力隊導入の効果



引用：総務省ホームページ

一般 深蒸し菊川茶の海外進出への展望

須藤 有紀（みどり21）



G1制度が海外において高いブランド保証と知名度を誇ることで、緑茶の海外需要が高いことを鑑み、本年6月の一般質問に引き続き、深蒸し菊川茶の海外進出に向けた展望を問う。

〔Q〕「有機栽培と海外進出に関する協議会を今年度中に立ち上げ、販売先地域のターゲティングや需要調査を行っていく」との答弁があったが現状と展望は。

〔A〕年内の協議会設立に向け生産者や茶商メーカーの方々と話合ながら進めている。海外進出は、民間企業の力をお借りした取組を検討している。

〔Q〕本年10月、私も台湾を訪問し、立法委員に菊川茶をお渡ししたところ、大変好評だった。台湾をはじめとした現地への働きかけやPR施策は。

〔A〕農林水産省や地理的表示協議会などの協力により、タイG120周年式典、EU欧州連合G1情報交換会で会場となったベルギーとイタリアでPRを行った。また民間企業から声がかかり、パリオリンピックを見据えたパリ市内PR

も行った。

〔Q〕G1取得により、国内外問わず交流人口が増加し、台湾などの現地の方が菊川に行きたいと言った場合に、菊川市として受入れの意思はあるか。

〔A〕今後菊川茶の国内外への販路拡大によって購入者様や茶商が菊川市を訪れる可能性はある。お茶の海外、国内外への販路推進と併せての検討課題と認識している。

他に「菊川市の農業と産業支援センターの展望について」、「わかもの」のまち菊川の実現について」について質問しました。



佐川急便株式会社との締結式の様子